凧を作りました。 大きな凧が上がったときのうれしさはたいへんなものでした。 生徒たちが昔の人の知恵や技術に触れることができたことも幸いでしたが、 大切に伝えて来た凧作りを中学生たちに伝えることができたということで、 保存会の方々にもたいへん喜んでいただきました。

「文化」というものは人から人へ伝えられなければならないものですから、「文化祭」は、 必然的に人と人との「絆」を前提に成り立つものだと言えます。

◆ 運動会

運動会に取り組む期間は、 文化祭に比べると短い間です。 しかし、 その中に、 生徒たちはエネルギーを集中します。

体育科の発表では、 男子は柔道の形、 女子はダンスを発表しますが、 準備の過程には、 上級生から下級生に技や動きを伝えていくときもあれば、 受け継いだものをベースにしながら新しいものを生み出していく場面もあります。 日々精進を重ねて黒帯を獲得したり、 真剣な話し合いや練習を経て新しい動きを生み出したりした生徒たちが輝くときでもあります。

応援団は、 運動会の花形です。 たくさんの生徒が希望して応援団に入ります。 最近は「三三七拍子」などの硬派の応援は影を潜め、 コミカルな動きや楽しいダンスでみんなの気持ちを盛り上げる傾向が見られます。 メンバーは、 短期間に集中的に練習して、 パフォーマンスをまとめます。

クラス対抗の「大縄跳び」のために、 各クラスは、 一週間ぐらい前から、 始業前や休み時間などの時間を使って練習をします。 縄を回す人を誰にするか、 並び方の順番をどうするか、 みんなのリズムをどうやって合わせるか、 運動が得意でない人をどのように励ましていくかなど、 たくさんの課題を解決して行かなければなりません。 だれかがリーダーの役割をになって、 みんなをまとめていかないとよい記録を出すことはできません。 本番までの過程を見ると、 中学生から高校生になる間に、 生徒たちがどのように力をつけていくのかもよく分かります。

もちろん、 リレーや騎馬戦などの競技もあります。 フィールドと応援とが一体となって気持ちを高め、 盛り上がることは気持ちのよい体験です。 啓明学園の運動会の競技は、「パン食い競走」なども含めて、 昔ながらの種目ばかりですが、 外国で暮らした経験のある生徒が多い学校にはむしろふさわしいように思えます。

運動会の柔道

学校の活動の中心は、 いうまでもなく各教科の授業ですが、 教科の内容は、 かなり厳しく決められていて、 毎年自由に違った展開をするというわけにはいきません。 しかし、 文化祭や運動会では、 その行事の目的にかなうものであれば、 生徒たちが自由に活動を組み立てていくことができます。 それで、 時間がいくらあっても足りないくらい夢中になれるのではないかと思います。

日本の子どもたちが、 文化祭や運動会に力を集中し、 その時間の中で自分を高めることができるのは、 たいへん幸せなことです。 授業では、 大切な知識が伝えられ、 基礎的な力をつけていくための訓練がなされますが、 そこで扱えることは人間として成長していくために必要なことのほんの一部にしかすぎません。 文化祭や運動会だけでなく、 日本の学校のいろいろな行事は、 若い人たちに、 授業だけでは育てることのできないさまざまな力を獲得させる大切な機会となっています。

啓明学園には、「ゴミ対策特別委員会」というボランティアグループがあります。 文化祭や運動会の時には、 普段の何倍ものゴミが出ます。 行事の日には、 ほとんどの生徒が下校した後、 暗い中でていねいにゴミを分別する「ゴミ対」の生徒たちの姿があります。 生徒たちは、 目に見えないところで大きな行事をささえる充実感と喜びを学んでいるのです。

もし、 他の国の学校ではできないことが日本の学校でできているのだとしたら、 それは日本の文化の優れた点を反映しているということになるかもしれません。

啓明学園　初等学校・中学校・高等学校
国際教育センター
〒 196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15
電話：042-541-1003
ホームページ : www.keimei.ac.jp
E メール : kokusai_info@keimei.ac.jp

文化祭・運動会は、アメリカの学校にはありません。

70 年近く前に作られた伝統ある啓明で、帰国子女の子ども達が極めて日本的な学校行事から、日本文化を体験し、吸収しているのは、痛快です。自分が住んでいる土地で、精一杯生活することで、帰国子女は数え切れない「宝」を身につけてきたのですから。

最近のお母さん方から質問されて答えられない問いに「どうして、日本人に育てる？」があります。この佐々先生のエッセイにヒントをいただいたような気がします。皆さん、回答は、もう少し待ってください。